

時事新報

市内の電氣鐵道

近頃東京府下に電氣鐵道敷設の計畫あり或は其敷設法にも種々の式あるよしにて自から利害論もあらんれども技術上の事は我輩の關せざる所として之を擯し單線式にて複線式にてても荷も線も空中に架して電氣を通ずるものは市中の美觀を損するの恐ありとて其計畫に反對するものありと云ふ聲入りたる次第なりと云ふ可し抑も市中の美觀とは何ぞや西洋文明諸國の都府の如きは市中到處に電線を架して恰も蜘蛛の巣を張りたる一般なるに反し支那の北京、朝鮮の京城などは全市街に一本の電線をも見るを得ず執れを以て美觀と認む可きや反對者は果して東京を北京や京城と同一ならしめて満足せんとするものなるや否や現に今日に於ても東京府下には電信電話電燈の架空線、市中に縱横して市民の便利一方ならず地方人などは之を見て府下の繁盛とすするものと爲すときは是等の線も悉く取締はざる可らず到底實際に出来ざるものなり或は電氣鐵道の如きは高さ柱の上に懸りて頂上を通過するが故に妨げなければ電氣鐵道の線路は割合に低くして人の目に觸れ易きが故に目障りなりと云はんかなれども若し此點より見るときは彼のむさくるしき人力車が客を載せて市中を走り又瓦葺馬車が疲馬を驅り雨後の泥濘を飛して人を苦しむるが如き最も目障りたるものならんや電氣鐵道は客車の外、觀望車なるのみならず車の動揺少なくして乗心も甚だ愉快なりと云へば一たび開業の上は彼の破れ人力、瓦葺馬車の如き自から敷を減するに至る可し寧ろ市中の美觀を増すものに非ずや且つ又今の東京は市中の廣き割合に往來交通の便其た少しし左れば役所又は工場等に日々通勤する小役人職工労働者の如きも自から其近邊に居を占むるもの多きが故に高樓の隣に矮屋を認め大店の側に長屋を見る等、市街の外觀甚だ不體裁なれども市の内外を通じて電氣鐵道の敷設を見る時は下流の輩は其便利を利用して遠く市外に居を移し市街の擁擠も自から觀を改むるに至る可し鐵道電氣は文明の利器にして其敷の多少は以て一國進歩の度とすするに足る可し世界普通の例なるに然るに市街の美觀云々の爲めに之に反對とは何事ぞや我輩の解せざる所なり或は又電氣鐵道の架空線は火災消防の妨げ爲るが故に許す可らずとの説もあるよし今日まで電信電話等の架空線の爲めに消防に不便を感じたるの諺を聞かざれば假りに一步を譲り電氣鐵道の電線は一種特別の設なるが故に消防器械の運搬等に妨げとせんか一二條の細線いよゝゝ非常の場合には之を切断するも甚だ容易にして其邊の障礙法は豫め鐵道會社と打合せ置くも可なり消防の不便を避ける方法は自から其他に工夫ある可し決して掛念に及ばざるものと電氣の如き電話の如き最初には世人の既に認むる所なり電氣鐵道も同様にして如何なる故反對あるも一二年の内には必ず其實施を見るものと疑ふ可くもあらざれば寧ろ速に之を許して實業の上成は不都合の點もあらば隨て其改良を謀らしむるも智者の事なる可し

南征所見

六月廿六日 臺北に於て 特派員 市川 高策

上陸後の三大戰

左に掲ぐるは近衛師團參謀長磯崎大佐談話の要領にして同師團が洩底上陸以來臺北占領に至る間の三大戰とも目すべきものなり戰況經過を記述せしものなり抑も近衛師團が臺灣上陸以來臺北府を占領する迄の間に隊伍を整備して戰闘したるは大小八回にして即ち上陸の東南(なり)、シム、金股蔣(土民は此地を瑞芳と呼ぶ)北斗街道と鷓籠との三叉路附近、鷓籠市街以東の諸砲臺同以西の砲臺并に臺北府の占領なりとす其内二期の戰闘は最も猛烈なる激戰なりしが其他は歩兵半大隊乃至一小隊の遭遇戰或は一部の攻撃にして先づ小戰闘と云ふて可なり今其三大戰に付戰況の經過を列敘すれば大略左の如し

金股蔣の戰闘

六月二日(此夜前衛團長は前衛を以て金股蔣附近の敵を攻撃すべきを川村旅團長に命ぜらる)午前八時三十分頃前衛は先づ金股蔣の東方山頂に在る敵の砲兵陣地を攻撃して砲二門を分捕り續て突進追撃するや其途中即ち隱蔽地にして道路屈折の處なる金股蔣の市街入口に於て敵と遭遇し僅かに八乃至十米突の近距離を以て接戰し數十分にして之を撃退するものと得たり此戰闘に於て歩兵第二聯隊長坂井大佐は軍服の袖に、同第一大隊長前田少佐は長靴に、同中隊長長某中尉は佩劍の鞘に各々彈丸を受けたれども身體には幸に負傷なかりし其他將校以下死傷十八名あり而して敵の死傷は該道路上現に見受けたるもののみにては百餘人に上り山中には幾何ありしが調査する暇なかりし此地に在りし敵兵は約二千名なりと云ふ其後敵は一時二千米突許りの所に到り尙ほ踏留まりて逆撃を試み又純然たる洋式に依て廣く散兵隊を配備する等稍々戰法の體格を知るものゝ如く見えたり

鷓籠攻撃の第一期

六月三日鷓籠攻撃の爲め金股蔣より一尺乃至二尺許りの狹隘なる道路を一行の行軍隊形を以て前進し其軍隊區分は一は金股蔣より險々街に通ずる道路に師團の左側背掩護の爲め歩兵一中隊を分進せしめ右側隊として歩兵一大隊(二中隊欠く)を鷓籠街道と北斗街道との三叉路より北斗に向けて分進せしめ前衛(歩兵一大隊)と本隊(歩兵二大隊弱工兵一中隊)とは鷓籠に向けて前進を命ぜられたり然るに北斗及び鷓籠街道の三叉路附近に至るや二百人許りの敵兵山頂に據て我右側隊の前衛前兵を射撃す時恰も好し我本隊の前衛は敵の右側山上に出で共に之を挾撃せしを以て三十分餘にして敵は北斗の方位に向て退却し死屍十餘を遺棄せり我には死傷なし

鷓籠攻撃

以上的小戰闘を終り續て鷓籠に向けて前進し前衛の先頭鷓籠市街を距る凡を一里許りの無名峰に達したる時小休をとす此時前衛司令官より鷓籠街道より敵兵三十一名許り我方向に前進し來るの報告ありたるに付參謀長は前面の地形及び敵兵を自ら目撃せんと欲し前衛の先頭即ち鷓籠市街を前方に見る無名峰に進み尙ほ高處を撰み展望せんとするや該峰を距る西南方約六百米突許りの地に乾立する山頂に堡壘あり其高さ著しく我眼前に現出せるを以て初めより敵の堡壘たるものと明知せし人も人影も見えず旗もなければ敵は守備し居らざるものと心得居たるに突然一旗の旗を掲げ同時に我駐止護衛兵に向て射撃を始む故に前衛司令官は直ちに歩兵一小隊を前進せしむるや敵は一時に急射撃を爲し問もなく退却せしを以て該一小隊は容易に此堡壘を占領するを得たり借前面の地形を展望するに山岳崎嶇として發之各山頂には悉く堡壘ありて多くの敵兵群集するを見る時に午前十時頃なりし依て傳令卒を以て師團長殿下に無名峰迄前進を請ひ殿下到達せらるるや攻擊命令の御決定を仰ぎ午前十一時頃より前衛の歩兵一中隊をして鷓籠街道の南側山岳の諸堡壘に向ひ其一小队を以て該街道の北側に前進する部隊と連絡を取る爲め該本道を進せしめ前衛の他の歩兵三中队は無名峰の前面に在る敵兵なき山頂より山脈を傳ひ或は溪谷を經て其前方なる最高山の砲臺に向ひし此山頂には兵營あり堡壘上には敵兵群集し且つ望遠鏡の備へあるを見る實に是れ攻撃に係る前進の手初めなり今此時の苦心を略記すれば確實なる地圖はなくして道路は僅かに鷓籠に通ずる一小徑あるのみ地形は高さ四百米突餘の峻岳連亘して該山間には或は水田或は溪谷に過ぎず加ふるに偵察を爲すの難難又命令を傳達せんとするも傳騎なく師團長殿下を始め孰れも皆徒歩したるは必ならば其困難名状すべからずと雖も初め上陸地に於て艦隊司令長官と三日を期し鷓籠攻撃の豫約あり又此日鷓籠を占領するに非れば糧食の皆無となるの懸念もあり旁々以て是非とも此日に鷓籠を占領せざるべからざる場合に迫り遂に師團長殿下の御決心を以て攻撃の部署を定められたる次第なり然るに前面の山頂より前進せしむべき前衛の歩兵一大隊(二中隊欠く)は進路に窮し前進の遲滞するを見たるを以て參謀官を派し目的地たる望遠臺及び砲臺ある高山に向ひ適宜進路を指定し北方の山脈に移らんとするや該山頂の砲臺より砲撃を始め頻りに發射して止まず此距離約千五百米突なりと同時に北斗方位に連なる東北方の山頂より鷓籠の方位を指し約三百人許りの敵兵數萬の旗を翻へして前進し來るを見る是れ無名峰を距る西北方約二千米突の處なりし是に於てか思へらく我前衛の歩兵一大隊(二中隊欠く)と衝突するや必せり然らば此歩兵一大隊の最高山の砲臺を占領し終るを待ち然る後師團本隊を以て大目的たる鷓籠附近の砲臺及び該市街を攻撃するものとせば到底日没前に此目的を達し得るの望みなきものと判定せしに由り無名峰下より幅四百乃至五百米突、鷓籠市街迄距離三千米突の水田間に在る一直線なる山間の狹隘なる道路を道路の左右山頂より大小砲銃火を受くるにも關せず聊か死角内を潜行し得るの望みあるを便りに進行するに決し川村旅團長を司令官となし直ちに師團本隊(歩兵二大隊工兵一中隊(一小隊欠く))を有するも其内歩兵一小隊は金股蔣に守備兵として留し同一中隊及び工兵一中隊は我右側北斗方位より前進し來れる敵兵の爲め師團長殿下の所在地其危険なるに由り

之を無名峰に覆せしむるは前衛の先頭即ち鷓籠市街を前方に見る無名峰に進み尙ほ高處を撰み展望せんとするや該峰を距る西南方約六百米突許りの地に乾立する山頂に堡壘あり其高さ著しく我眼前に現出せるを以て初めより敵の堡壘たるものと明知せし人も人影も見えず旗もなければ敵は守備し居らざるものと心得居たるに突然一旗の旗を掲げ同時に我駐止護衛兵に向て射撃を始む故に前衛司令官は直ちに歩兵一小隊を前進せしむるや敵は一時に急射撃を爲し問もなく退却せしを以て該一小隊は容易に此堡壘を占領するを得たり借前面の地形を展望するに山岳崎嶇として發之各山頂には悉く堡壘ありて多くの敵兵群集するを見る時に午前十時頃なりし依て傳令卒を以て師團長殿下に無名峰迄前進を請ひ殿下到達せらるるや攻擊命令の御決定を仰ぎ午前十一時頃より前衛の歩兵一中隊をして鷓籠街道の南側山岳の諸堡壘に向ひ其一小队を以て該街道の北側に前進する部隊と連絡を取る爲め該本道を進せしめ前衛の他の歩兵三中队は無名峰の前面に在る敵兵なき山頂より山脈を傳ひ或は溪谷を經て其前方なる最高山の砲臺に向ひし此山頂には兵營あり堡壘上には敵兵群集し且つ望遠鏡の備へあるを見る實に是れ攻撃に係る前進の手初めなり今此時の苦心を略記すれば確實なる地圖はなくして道路は僅かに鷓籠に通ずる一小徑あるのみ地形は高さ四百米突餘の峻岳連亘して該山間には或は水田或は溪谷に過ぎず加ふるに偵察を爲すの難難又命令を傳達せんとするも傳騎なく師團長殿下を始め孰れも皆徒歩したるは必ならば其困難名状すべからずと雖も初め上陸地に於て艦隊司令長官と三日を期し鷓籠攻撃の豫約あり又此日鷓籠を占領するに非れば糧食の皆無となるの懸念もあり旁々以て是非とも此日に鷓籠を占領せざるべからざる場合に迫り遂に師團長殿下の御決心を以て攻撃の部署を定められたる次第なり然るに前面の山頂より前進せしむべき前衛の歩兵一大隊(二中隊欠く)は進路に窮し前進の遲滞するを見たるを以て參謀官を派し目的地たる望遠臺及び砲臺ある高山に向ひ適宜進路を指定し北方の山脈に移らんとするや該山頂の砲臺より砲撃を始め頻りに發射して止まず此距離約千五百米突なりと同時に北斗方位に連なる東北方の山頂より鷓籠の方位を指し約三百人許りの敵兵數萬の旗を翻へして前進し來るを見る是れ無名峰を距る西北方約二千米突の處なりし是に於てか思へらく我前衛の歩兵一大隊(二中隊欠く)と衝突するや必せり然らば此歩兵一大隊の最高山の砲臺を占領し終るを待ち然る後師團本隊を以て大目的たる鷓籠附近の砲臺及び該市街を攻撃するものとせば到底日没前に此目的を達し得るの望みなきものと判定せしに由り無名峰下より幅四百乃至五百米突、鷓籠市街迄距離三千米突の水田間に在る一直線なる山間の狹隘なる道路を道路の左右山頂より大小砲銃火を受くるにも關せず聊か死角内を潜行し得るの望みあるを便りに進行するに決し川村旅團長を司令官となし直ちに師團本隊(歩兵二大隊工兵一中隊(一小隊欠く))を有するも其内歩兵一小隊は金股蔣に守備兵として留し同一中隊及び工兵一中隊は我右側北斗方位より前進し來れる敵兵の爲め師團長殿下の所在地其危険なるに由り

六時二十分(北斗街道) 午前七時二十分(鷓籠街道) 七時十分(鷓籠街道) 七時三十分(鷓籠街道) 七時四十分(鷓籠街道) 八時十分(鷓籠街道) 八時三十分(鷓籠街道) 八時四十分(鷓籠街道) 九時十分(鷓籠街道) 九時三十分(鷓籠街道) 九時四十分(鷓籠街道) 十時十分(鷓籠街道) 十時三十分(鷓籠街道) 十時四十分(鷓籠街道) 十一時十分(鷓籠街道) 十一時三十分(鷓籠街道) 十一時四十分(鷓籠街道) 十二時十分(鷓籠街道) 十二時三十分(鷓籠街道) 十二時四十分(鷓籠街道) 一月一日 一月二日 一月三日 一月四日 一月五日 一月六日 一月七日 一月八日 一月九日 一月十日 一月十一日 一月十二日 一月十三日 一月十四日 一月十五日 一月十六日 一月十七日 一月十八日 一月十九日 一月二十日 一月二十一日 一月二十二日 一月二十三日 一月二十四日 一月二十五日 一月二十六日 一月二十七日 一月二十八日 一月二十九日 一月三十日